

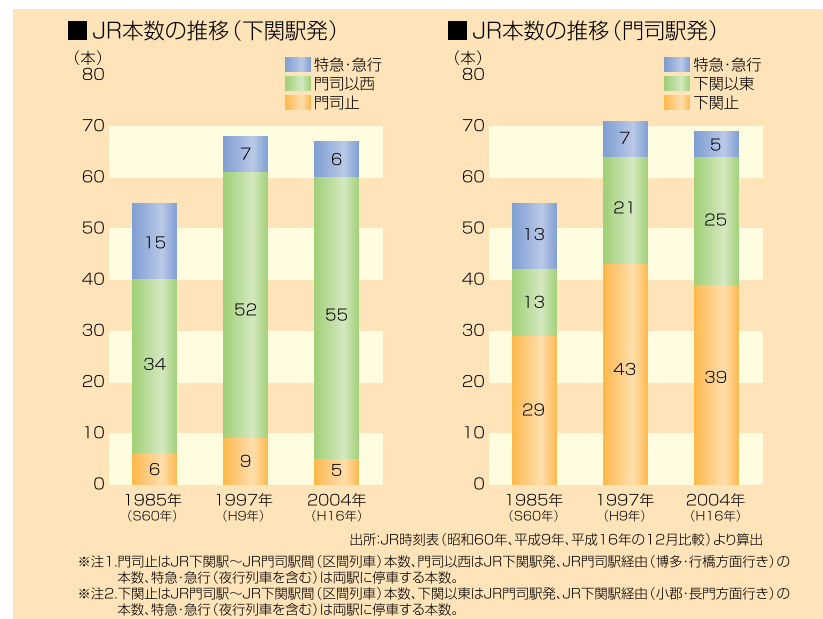
TRAFFIC SITUATION 関門の交通

北九州市と下関市間は、鉄道交通（JR線、新幹線）、道路交通（高速道路、一般国道、歩行者・自転車専用道）、海上交通（一般旅客船航路、フェリー航路）の7つの道で結ばれており、両市民はそれぞれ目的に合わせた交通機関を利用しています。では、これらの道について簡単にご紹介しましょう。



1. 鉄道交通（2路線）

① **JR線** JR線は北九州市、下関市間を結ぶ主要交通機関であり、大量輸送交通機関として両市間の交流に果たす役割は非常に大きいといえるでしょう。接続本数も年々増加し、その利便性はますます高まっています。JR小倉駅からは博多方面に鹿児島本線、行橋・大分方面に日豊本線が接続しており、JR下関駅からは小郡方面に山陽本線、長門方面に山陰本線が接続しています。JR小倉駅～JR下関駅間は所要時間が約14分、料金は270円、JR門司駅～JR下関駅間は所要時間が約7分、料金は220円です。



JR線では、関門間は『**関門鉄道トンネル**』で結ばれています。『関門鉄道トンネル』は昭和17年11月15日に開通した“世界初の海底鉄道トンネル”で、長さ（延長）は上りが3,605m、下りが3,614m、海峡幅が1,140mです。

② **新幹線** 山陽新幹線は東京・博多間を結ぶ高規格鉄道で、北九州側にJR小倉駅、下関側にJR新下関駅があります。JR小倉駅には「のぞみ」「ひかり」「こだま」の全ての新幹線が停車し、JR新下関駅には「こだま」と一部の「ひかり」が停車します。JR小倉駅では新幹線と在来線が同じJR駅構内にありますが、JR新下関駅からJR下関駅へは、山陽本線の普通列車の乗り換えが必要です（所要時間約9分）。JR小倉駅～JR新下関駅間は新幹線を利用する場合、所要時間が10分、料金は普通車自由席利用の場合1,150円（乗車券320円+特急券830円）です。

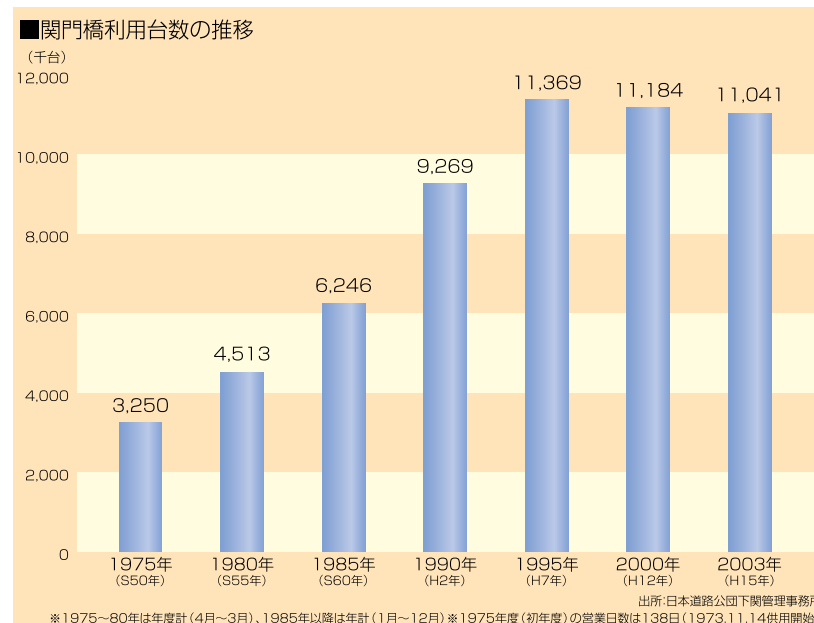
新幹線では関門間を『**新関門トンネル**』で結んでいます。『新関門トンネル』は山陽新幹線の岡山・博多間の開通と共に、昭和50年3月10日に供用開始された新幹線専用トンネルです。長さ（延長）18.7km、海峡幅880m、これは現在（平成17年2月）我が国第4位の延長を持つ鉄道トンネルです。



2. 道路交通（3路線）

関門海峡間は高速自動車道と国道（歩行者・自転車専用道路併設）の2つの道路でつながっており、高速自動車道では『**関門橋**』、国道では『**関門トンネル（車道部と人道部）**』、が海峡間を結んでいます。

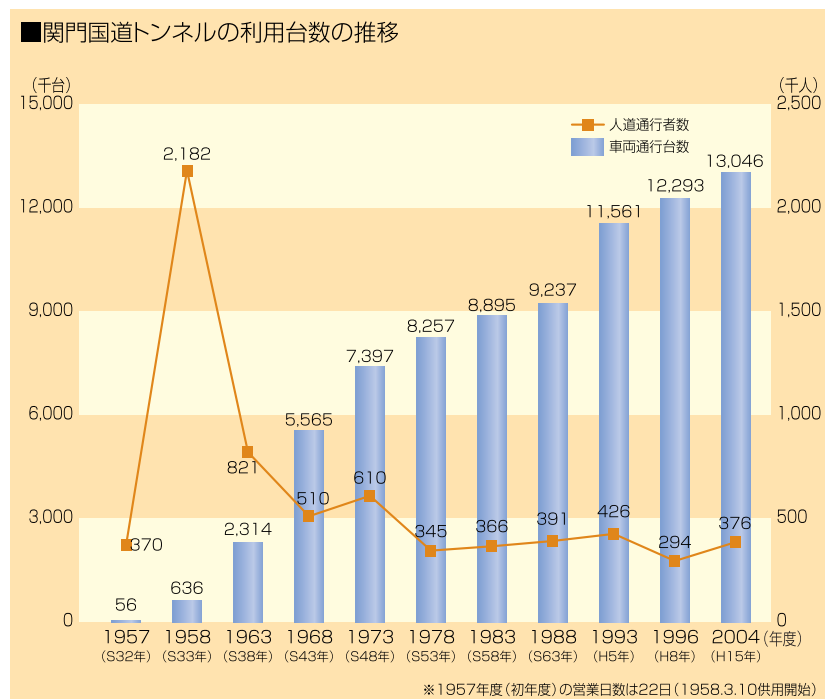
『**関門橋**』は中国自動車道と九州自動車道を結ぶ高速自動車道（関門自動車道）で、昭和48年11月14日に供用開始されました。車線数は下関ICから門司港ICまでつり橋を含



んで6車線、門司港ICから門司ICまでは4車線で、下関側に下関IC、門司側に門司港ICと門司ICがあります。下関ICから関門橋を越え（下関側[下り線]に壇之浦PA、門司側[上り線]にめかりPAがあります）、門司ICでは九州自動車道と、北九州都市高速道路4号線に接続しています。料金は普通車の場合、下関IC～門司港IC（4.3km）が350円、下関IC～門司IC（9.4km）が600円です。関門橋通過台数は、昭和49年度の300万台から平成2年には900万台を突破し、以降1,000万台を超える台数で推移しています。

『関門トンネル』は、昭和33年3月9日に開通したトンネルで、車道部は長さ（延長）が3,461.4m、海底部780m、最深部車道面標高-55.86m、車道幅員7.5m、有効高4.53m、アスファルトコンクリート舗装という構造になっています。関門トンネルは、海底部では、『**車道部（国道トンネル）**』と『**歩行者・自転車道路（人道部）**』の2層に分かれており、車道部（国道トンネル）は普通自動車の場合、通行料200円が必要です。

関門トンネルの平成15年の通行台数（国道トンネル）は1,300万台、人道通行者数は37.6万人で、1日の平均通行台数（国道トンネル）は35,742台、人道通行者数は1,030人です。



関門トンネルの歩行者・自転車専用道路は、門司側の和布刈と、下関側のみもすそ川に入口があり、ともにエレベーター（利用時間6:00～22:00）を利用して昇降します。長さ（延長）は780mで、ゆっくり歩いても15分ほどで渡れます。人の通行は無料ですが、自転車は通行料（20円）が必要です。トンネル通路には福岡県と山口県の県境がペイントされており、ここで記念写真を撮る人も多いようです。（問い合わせ先 ☎0832-32-2811）



3. 海上交通（2航路）

関門間には『**関門連絡船（しいがる、ふえありい1号、ふえありい2号）**』と『**関門海峡フェリー（フェリーはやとも、フェリーふく彦）**』の2つが就航しています。

『**関門連絡船**』は、北九州市の門司港と下関市の唐戸桟橋を結ぶ連絡船です。3隻とも定員100人未満の小型船ですが、その歴史は古く、“唐戸渡船”として地域住民に親しまれています。所要時間は5分、片道運賃は大人が390円、小人が200円、自転車200円で、両区間を20分おきに結んでいます（唐戸桟橋へはJR下関駅から長府方面行きバスで10分、「唐戸」下車）。平成15年度利用客は年間618,731人、全体の約20%が通勤・通学による利用者が占めており、まさに地元の大切な足となっています。

下関市では「あるかぼーと開発」の一環として、観光交流施設「カモンワーフ」を新築し、また老朽化した旧水族館と唐戸市場を移転して、下関市立しもせき水族館「海響館」と「唐戸市場」を整備するなど、唐戸地区の再開発を進めています。関門連絡船の発着場となっている「唐戸桟橋」は、西側に「海響館」と海岸線沿いにウッドデッキが続く遊歩道が、北側に「下関グランドホテル」「カモンワーフ」「カラトピア」、東側に「唐戸市場」があり、桟橋を中心とする一帯は唐戸地区観光の中心として整備が進められています。

関門連絡船は住民の足から、関門観光の重要な移動手段の一つとして、大きな役目を果たしています。（問い合わせ先：関門汽船株式会社 渡船事業部・門司港側 ☎093-331-0222／下関（唐戸）側 ☎0832-22-1488）



関門連絡船（ふえありい1号）

『関門海峡フェリー』は北九州市の日明港と下関市の荒田港を結ぶフェリーで、旅客定員がフェリーふく彦が250名、フェリーはやとものが350人、車両航送台数は乗用車が12台、8トントラックが12台です。運航開始は昭和51年11月9日、運航区間3kmを13分で結んでいます。運航本数は平日が20分間隔で32往復、土曜日が17往復、休日が15往復（各々40分間隔）となっており、平日の運航頻度はかなり高いことが分かります。運賃は、大人150円、小人80円、軽乗用車、軽トラック（3m未満）が380円、普通乗用車、小型トラック（5m未満）が590円、普通トラック（10m未満）が1,360円となっており、大型トラック、トレーラー類、大型バス、マイクロバスなど車種によって料金が設定されています。（料金についてのお問い合わせは関門海峡フェリー㈱ ☎0832-66-6371へ）

『関門海峡フェリー』は、阪九フェリーの乗り場移転（現在は新門司港発着）などに伴い、トラック業者の利用は多少減少していますが、関門間を渡す貴重な物流手段となっています。しかし、現状の利用者は、乗用車の通勤客が中心で、彦島周辺～若松・戸畑方面の往復に利用する人が多いようです。平成16年の年間総利用客数は約56万人、利用台数はトラックが月平均約2,300台、乗用車が月平均約26,000台となっています。また、定期航路事業以外にも季節に応じて「海峡クルーズ」「ピアクルーズ」などのクルージング事業（50人以上より）を行っており、また、船上結婚式の「マリウェディング」の企画にも取り組んでいます。（問い合わせ先：関門海峡フェリー㈱本社 ☎0832-66-6371 小倉営業所 ☎093-561-3012。http://www.kkferry.co.jp）



宮本武蔵と佐々木小次郎の決戦の舞台となった「巖流島」（正式名称は「船島」）。周囲約1.6km、面積約10.3万㎡の「巖流島」では、平成15年にNHK大河ドラマ「武蔵 MUSASHI」が放映されたことをきっかけに、関門の新しい観光資源として、観光周遊船が接岸できる浮桟橋や海浜の整備、「宮本武蔵・佐々木小次郎の像」などの整備が進んでいます。主な見どころは『巖流島文学碑』

『巖流島木碑』『佐々木巖流之碑』『武蔵像・小次郎像』『人工海浜』『海峡沿いの散策道』『巖流島船着場の碑』などです。

「巖流島」へは、現在、㈱関門汽船が定期船（直行便）を運行しています。乗船者の確実な往復を確保するため、発地への帰着が原則となっており、北九州市側は門司港桟橋から、下関市側は唐戸桟橋から出港しています。乗船料は大人800円、子供400円で所要時間は約10分です。（問い合わせ先：関門汽船㈱渡船事業部・門司港側 ☎093-331-0222／下関（唐戸側） ☎0832-22-1488）

定期船（直行便）以外にも関門汽船が周遊観光船を、㈱スペースクルーズが関門海

峡周遊船を運行しています。周遊船には、土星型旅客船「ヴォイジャー」で巖流島へ上陸する80分コース（定員120名）と、「ダイアナ号」で関門橋下を通り巖流島を一周して戻ってくる関門海峡遊覧50分コース（定員70名）があります。乗船料は1,000円、小学生が500円です。

（問い合わせ先：関門汽船㈱渡船事業部・門司港側 ☎093-331-0222／下関（唐戸側） ☎0832-22-1488／㈱スペースクルーズ ☎093-331-8411）

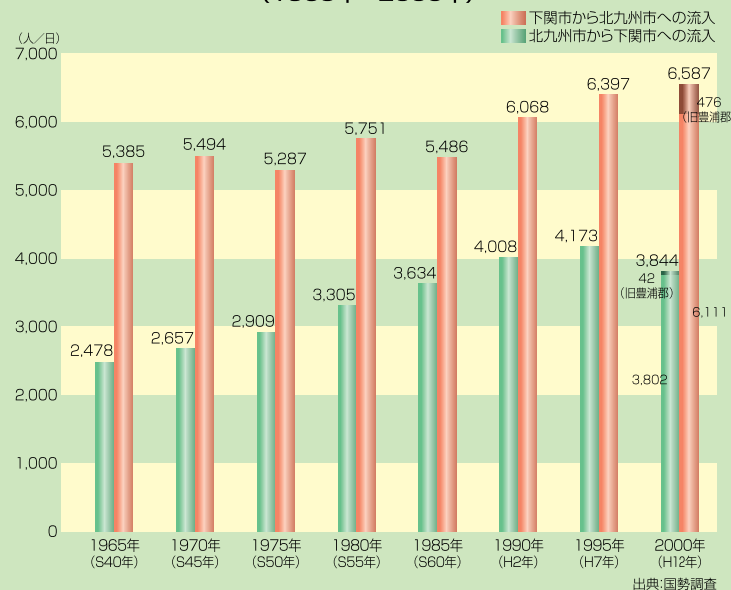
巖流島データ

- 所在地／下関市大字彦島字船島648番地
- 島の周囲／約1.6km
- 面積／約10.3万㎡（島の所有は約1/3が下関市、2/3が民間企業）

現在の面積は武蔵・小次郎の決戦当時に比べて3～6倍程度大きくになっているといわれています。人が住んでいたこともありますが、現在は無人島です。

COLUMN コラム

通勤・通学による相手市への流入状況 （1965年～2000年）



平成12年の国勢調査によると、通勤・通学で両市の間を行き来している人は、1日に両市合わせて10,000人に達しています。特に下関市から北九州市への通勤・通学者は年々増加を続けており、今後も人の流れは活発になっていくでしょう。

